人て総

ど競り

5

し中く

問たでの `政

多

っ回の成挙

り躍んをお

は落合

Ø

9 議国

員

٤

をががは所党

し新票ど謂が

らいのつい中中

な

゜般がと

的らと

がきの殆果に

ななだ云俊

こまのとかるいの

お年日うは今選の選

私し挙

な

7

もいはが顕々

し

にしてら国

B 5

も回まその打

実上本ずえして

1

よて讃た明を位人回た

うい歌と党して人の方

s n

ト上た今れる一

係

D

_1-

したた をと 。避だ甚たな多挙、と見いろわに過 しの挙日挙がだとかく運これ方とうれつ般 ただ運中の『振しっ落動 っ動友宣あわてた選に半でよが。 たは好伝る 採はカ自かス殊たいく中だ そるも 1民フコ 党たミ今 ,しべと で てき よ流の 候私とのたの間開はたでがいて で b し そな結て補はれ日当とにの別 のい 構ま者あを中選と中たのと外選 ・・侯と なでのる大復しを国め考い交 と日如地き交て強をにえり 補 そ 者のと中き方くにもく訪尽方の題 はとだ友はで取基必訴問し 予きが好 を毛際げルしらて来て聞にう日日 想改 めと唱沢にた K 反てのえ東見公

し痛

向

Η 本 の 選

択

京 外 玉 語 大 助 教

授

氏

外にたにき意 う反流はうな国といて 日プ 日と中は外に感れてな気でとるて本1私 ての一さいを観如人ムは 冷中私国かに私乃 静復は問な冷は至い日部えう競が何でにあ 題り静思危る中のしず 合あにあおる で交感 り懼と友ムた漢 っっ北 るけ新 あがじを過で のと好 奸 てた京とる聞 0 つ取て考熱 あ 1 ٤ しにと っ一念にムドと 5 た上いえし 迎を友コ げた 般が反 1 がう る よた た の今感 ド暫し د ن **らけ** いよ日合忘好ラ う本すれ人ム うれ最 とれ日国回をが くて 5 ど中民の持余続中 に側る · 士 化 いた近 す っりい国 も復は選 うとのる もの度或 P 挙 て に た に ^葉 見 手 合 い の 書 交 とと学精 日にいもけも も生神国に にえのがは言い なな運の民は中もた原れっぴた内高 日動た どく動べの政復現よ則どはっ。を が、の ネ 間 界 交 わ う を 、 ら と 先 、 学 ス が に 財 に れ だ 忘 一 迎 り の 方 をい本をが らたと先かの見 を主て過 育は界つてしれ般合 す人に競体い般 、たのする選さ合性るの · つ マなな ŧ ì ガてとスてたそ形国るよはらっを AA コはよので民より中すて

思っ Υ K 対 す る 批 判 ځ τ 翼 挙 K 現 ゎ n

た

方のれにあり唱ィ前らつ 今と共一で毅る講る潜えン提なて一のに 回と産方関然人演と在てタのかあ方 ` I 許 っる いたのなと的 総なが一たる中どを不ことにた っは九く態にで忘満のュ特日刊回。 挙たじ五ら度さゆれな危1集本誌の ののめ五いのえくてどなに号共が選得だて年で方、とはをか安を産、単 とはをか来を産、革 あが日、い取した組党次で よ中元け込いがみはのは ろ問来なむ日 、た大総日 し顋 いよ中私いき選本 ムはとく単共 いにきとう 、つわ云な そし凋で産 - 1 といめっ共ドれて落 は党 いててて産にに す 日が りは保か党対あ私る中躍 の日守いのすえのだプ進 を本的た支るてとろ1し 彼共と 。 持 批 異 と う ム た 方産思地層判論ろとに。 此党わ方のなをにの乗か

るがむ本 のに党 鎭 得だて年で方 票が目 Ø 覚官る 増そめ本 伸のて • 化後 `毛 なの日沢 っ同共東 た党独会 もの自談 の地のに と道進よ 思な路っ わ政をて れ策歩日

決でにきょ 裂あ参で戦以 する加あ争前 るがするの、 、べと後北 K 至日きか方京 っ本で 陣と た共あソ 地一 0 産 る準で体 そ党と修あて しはか正るあ てとを主日っ 日 れ 義本た 本を北打で日 共 拒 京 倒 暴 本 産否かの力共 党しらた革産 はて指め命党 先遂示にをは 進にさ締起 国北れ一とべ 型京た戦す ŀ のとの線ペナ

> 深つよ思い冷落恩選知ある 党し則 くなううと静麗来挙らっれ日のにち 老がに。こなしと遅なたた本姿転っ えら見以ろ眼た握動いとこ人勢換ラ てなて上でがと手にとのとはにレン みかいは今あとしおと念が、つたス っる、回っをていかが左となの る べたの少のた考いてらあくれがで 1 `まっあ きとで数選とえるも っ Ą ・中て日でて 1) 題てる見はえと真毛国 本に 5 ァ 。か 中よう で処 を沢に中は中ると は理新も国う日方東つ国中国よれ同 なし聞知問し本々讃い人国 うがじ K のに歌てのに かたはれ題 よに日型 なにま一掲。 ろが は強対 っ思中の 、外い関た般げを甘さしてう問共 5 かと交が連、国た流い老で 題 産 。れ問 しき民よし対獪はい に 党 は題私てわのうた応さ加目 対に 今ははいめ中なりがな害に すな 少票それてに人間をとる遺 るし しにのと深はが

りを

でわ

同崩

習緒1なの実 中性的ド認外情と 国にモと識交にう を政つい は埋メか 持策いう 日没ン 本しト 中たなて観 のてだ国な りも点 問はけにけ国よか 題いで対れ家りら にら中すば目 1) つれ国るな標アカ いたを シらのルれ てい観ンぬ中にわっ るパとに分れ は 中 よシ思位析は 国 5 1 5 置し日 。うて中 なと な 日いうけ 围 ŋ K 本りわてそ交 よつ行れ回 1) 人 7 特 ういくを復 有なた冷日後 ル な の情ム静本の

がろ

て中

その

に ス

妥.デ

なア

日の

本中

OK

認め

激密

が教

当ィ・

ħ マ

は

略 メ

っ

なで米い走のっ食い軍日イ認 て他眼本テニら国かだらを日るっ街とわる事本ア職 てに米ず 。にを 、動 いはのの反地とおし 一のいメでスか紙て国主中派とる浮自状面がしいて あの行でいの張国・のし浪給態国あててい 、者自に民 っ描はる 。テわるの導て厳本う空が足堪はてい、 たっか者いて軍にに群がえそ てのそいい人 おたとた先民 あい日う本でか義をメてる りめを 、に膨 カりう農打大 ででしの。れこての、に村ちな日はのあさてイ をの日空一なはひ軍本日よ 日はの 打よ本電方の渡し事は本り 倒り像 がそた弊が力 あをな しんを飛る しれがら 公 な人描びをま て制ゆ軍的 廻戦た最食例 け民き れの出 っ車東近り 6 処主メ ば敵してが京ややほに義デ

いの主日メはぐ中ば い外をのイコい代りがぬり反 る国置ィアトレ表見中と て 1 るメきあた指しの日よ P いジ こるを れ。そ中 1 をその国アら人とがたあ国事はがで 見しよはでな民い日のる主実アっき るてり と無にそるも報とをあら者枉りおよ の┗決右るとはげ 論人のよ 民時り を 意日に々はあさて 職本定のプるえそメ レ三う 1 ・着政ロ アさ策パ 百でジ T 記メせにガと人はの りる従ンのになよ 事 をカかつダ新一いら 書そにての聞部° €

> 覧よね しらん てな出 6 N 7 るのい ががた ` **b** つ参 P のて考 文 よ十献 っ八. て級内 は以部 閲 上文 覧の献 後幹· 回部部 収ク外 しラ秘 てスと いがい

ヸ

いきれも ら集かよ っ到 たなて幻こずめらくて音 よかも想れでて漫知一の っ般と りっ突的にあお画 にた然で反るり ・て大と 思。のあしか ポい衆な うととる日をそルるはど 。うとよ本調れノ の知は 5 **-**いて うの査に雑で 5 な中研 よ誌 あな人 ってるい民 情従気に究 て至。だ日 況来がおし がのすけて如る中ろ報 と報るるい何ま国うし °中るにででがに れ道 まや林国のす各は幹は で思彪のでれ般 部 截 繰考事認あばの日クせ 返で件識る百資本ラな えはがは。戦料のスい さ解伝余 危を学のし れ釈えり、うよ術 てでらん: かく書は る関う

連中形よにこ点がさ い国がかおとがなて っいをあけ あ対ったて事っれ日 も日前たば中 る筈の本にもな国 でとは充のら交 応あ私必分とぬ回 るはず考 要復 。思し慮私因に うもしはがつ あた以あい のな前って B っよらかたは ٤ うばらし `中 、考 ぺな タ形過えそ国 1 に般てと側 ななのいにに 方 ら 日 た 中 復 法な中。国交 なく交このを

りて渉の弱急

がにあ すた 8 本 ح ァ メ IJ カ ٤ て は 大 È

等商せ改 先 ッも ₹ って多 るとヶ春とアに問な善ア日シと シて メ P ンも ガい密 辺ァ北読りいんら志りキジとンるな 中リ アのメ京みヵてつァ向ヵ氏ャ民大 研国カ リ会とは広いメレでと1主学私究研 くてりな は一の党のの •-` 緒 下 支 若 友 分 、ア京中で有 IJ 1 **営が本を如政に国あ能チレ** りたャ が のさなあれ現なで手にのっ究な研 1 1 り維れう認て換のプら家 ス トそ 别 まもで中政をいえさ国中っしのい口 出あ共策望たてせに国たン後るモ ₹ 中佐 版る同をんのいる名と • にゃ がン 。コ樹でだるかをの ٤ 加は È 0 。のご取関 わり彼いをわ下 か台 ら係 りゃはりゃめに

彼の

りと或のとすい ニ今と でいよい がのはのをメつ題がを の中国 一つのの しい方 メ事 カ 談 リ情 す交国中策人力がのにた中深はカが る渉の国と一の最認赴が国い中のらアにで持手人析 に中としつ政近識い故が研国政もジ北の者ので し乗にかての策明通たに台究は策 打中研かりの てつ一出国究ににでその行心相何策行研 何とのつさ とな政のれだ結れっりな状わどにし転たのが究下 ゛た しい権中たが果 てでと国のすが本の米の持て考め中・だレそがソ でぐ で One Ch もろうつあに のるで 5 台 ゜は さ 実 ; h のやな液従な 状はこ 、来く τ

> 行は況 を日は会先な現を 否たのでと認 るる 世 とな 9 け しれ ては アな メら 1) 2/2 カ は台 米 湾 中に 会つ 談り

> > をて

中定際クあす `ル プ つズで 1) ッ そッ のン 質ジ 問ャ をし ۲ たオ フ とレ ろョ

潜ど実計しいがとのう、アよ 在んな画な多国日がな或とう先前本そ談般 しなのにがく民本あといしに方向でれを少た維国 て国だ失らののとるとはて思のきはをし数の持に 、人中の部にそ出え真に なろ敗 たのうしそがに間分なのしる意し こかかてのいもににり受て。をな国し、 とと、終シた中は形、売来そ読が問な私 終シた中は形 2 2 ンわ国と成まりてれ取ら題かが をのそに 墜ょけのれさたのいでろ中に 忘疑う プだれ卑度る先う国取たバキ れ念い死ルで 、ロける屈合と方とを がりすで はわこるあ文パのこなのとがすり 让 っ化ガズと虚大をプるア K ながとに ら国が至た大ンレに弱きそ 口貪ル 当 っ林革ダがもないのパ欲に なの起 いーりた彪命をあな中こ 重 ガさ冷 τ 般得とがは鵜るる国と ま ンが静 0 0 観を受ダ欠に B のるい毛成呑 と競取のけ見本 7 人中
り
沢
功
み
し 選国の東しにかょい合 っょて詰の にとは暗たししりううたデいめ姿

, ·

•

₹

てい

ュてる

はは事殺となわかもよりィたて勢

で現 い在 るの の中 か国 。は 私ど はり 中り 国 状 は沈 今に 大 ୍ର È なて بخ の 期方 化向 さ ĸ

ん

あ 向 ŧ, 5 か 見 定 め が っ か な 5

状

しなこうき革絶る 、ら中て矛と傾が後対 °中に 国い盾で向出は的と国 り中今はるがはがてとなれの 様内な見きの存ま内 らて毛在で政う し てれい沢とはをに τ るる東し毛見思方 従が°絶て沢てう ` 昨 対 万 東 ど来 方国れ す国だ を 向のは脱チ まの奇 に内文文 I. さ シ形 出政革革 **/ れ. ン 的 てが後化ク てポ状 行持の È し ル態 とっ静非よ た とに 5 てけ文 5 മ し慣 かいさ革と だ てか と化す が ħ. とた 角様いとる て 逐々らい動文たい

代は民の家て的代をてしずが 表そ代で主外空表いいて 0 大の表国席国白大 るお党 0 会見大家なとを会国 、央を を诵会主の条なは家そ 開しが席だ約ぜ過機の政政なと相攻く くは開はがをま去構補治治党れな 結と八を充局局中程の 皆か空 つ無れ席人んも年見が姿の央世で とるの民だに間て必員幹の界あ てい可ま代り考もも要の部りにるの中と今化事が点 で半五 っ能ま表 え 開 1 1 て性で大条なか国あ数人ダ よはあ会約いれ会る以の 1 1 どるがののてにの上内シズ 央と と批かい相にが三ッマ o な の思か来れ准 当 仲失人プ " 5 と年をを中いす々脚まのプ 。 る い度選す国 そしで再さ ら に任る を こ 全 れ てが建れ 1国に全しの代の国がし姿 B て 、国をは表政人出まを出い シ人 ッ民私人い国し治民来っ消来な

て今確い路中あののもっに在え報け開的副を れ沢あら後行後立と線国り段各多解見し非一のかに主確 て毛ゃ内な改席立 *内でい当るが面そ軍けい沢 ¬ 政けめと がるのと政あり面と大のの報らる東紅 上れな のとき変よいれし化旗のはけ る を一余なれ毛 の課はい化うと を題常だはなは 0 こ図を裕らは沢は け大節か文れる見はなな東な がし的にきがな **うるをいらのら** 革に の対と ず いあり いのず後 ٤ としる論初すれ、。調知な す 綝 0 調期るる毛そがそ者 そ 首れ てあ国固一肯に問とをに抵潮沢れ nE きろのめ且でつ恩も異は抗流東に今にした りて走きい来かに のが体 て外くし、動か制最中先九に る 。様交文て人きな 下近国す全は りにのに十体 々に革い民も なし以た日あ大おっは全制林 抵て来が報るきい人そ大を志 抗も中、」よく て民れ会全を

う 潜 さ 日 だ を 面 党

がそ国今と

もめくのな来 굸 はは わ毛が見り れへくももととの得幅方少放受 て東る 6 N る戻も ľ る後 5 ح ک 姚継だ ののる P 0 文 者 خ と思 一統 れのう年一然 元と 予問も がし で出 5 是 と識 は来 τ に不ず 新 国 ま た 行可ん 非てに 鬦 は だい **に** そ な能は ではも \$ O 種地 って中も 々点 in 紹娘 介婿 Ø = を たうり さど 反 通 0 れか 発 過 H 行 b た妊 ・レ と中ダか出 oa がの 抵 た を国 1 さし 婿 抗も 踏はシ るた み恐 ッを周 私と のの 得恩 はか 要と 77 固らプ

文コチョげ困後れだと てしろ令周元人のたる来継て固れ う的恩後民名毛とが者い ア問を k 題 が にはて後説しげになり H らい遊 笑周も継をでた対ちヵ Ŗ り恩後者否はのすば人プ でる姚記 1 のは者しし集はり文者で 5 5 林 ッ元 ō あと鳥 周ま別はい指かプを るとが後 誾 鲎 とに党継 削りサげ K 思な規者 応 のかし る っ約の b えてれたで ··o 問 ピの 題そスが 、る情後と をのに無誰 況継は 提三も難 か恐の者中 起日なで一ら許 と国 し後るま 人〈 で、定で てののり を はめは tik で 革 周

見るだ年 **b** る最。に来継日を沢す 後私見は者報単東る も来継と定 はいはてて団な 恩大 に ス た 遵 ろ・ 来き考ヶ でなえし は政なル な治けが か力れ大 ろをばき う持な過 か つらぎ ۲ てなる **S**

0

入治を Ø 放 命 中 っ秩高極伝今闘外国 て序く力統後争交は 安の評意的も支かと 保中価を外と援られ です注交のと国か 常 任反るぐ関方い家ら 理体よと係向う外外 事制うとををこ交交 国でにだ樹間とへ的 にあなろかめを転に っっうすてあ換ど ሄ なたた 0 る行ま しら っが 最と < b Ж 、中近同 た P 云 従 る し昨国の時のわ来か 年は中に とたの そか以国 思 くょ今 のら前は国 **た** り や 5 有体は国連 っに中 利制国連外二 て民国 さ側際繁交国お族は

に政策に間

り解革

はく 国 近を のア賞 あて能 リな 国に 連疑 外間ソ国 交を連連 を抱も外 強き国交 く初凍に 推め外力 進て交を しいに入 よる飽れ う中きて とでて行 きく し て国てだ い連おろ るを りう の高

で う 麗 向ョ会 な演日 く し り り し じゅ もれ交 ったな とがど 地 味来世 な年紀 中はの 国必ド 外サラ 交

のも或

関エるいはによ難は ッたる昨な 、な林ら 一演 ウが中盾事思はが との持ン必会や件ら ト要談危の - 機 後 はあ日をを っ中克 5 て、 ٤ い周中 う 恩国 よ来内 う路政 な線の

トを持

が国は関 て台復め触 、境大係中は湾交合れ米ラ間っ中展そい今中評連 きに国更はにっず中マめて国開のは年国価 悪方まなあがに現また にのた変 っ米各状での台係 な新ま化た中方維すだ湾のクめ様年るなな米 っ聞たがの会面持ぐがは第なに々のよ方シ中 • て論衝起だ談積のに 現 ・極線行今状ラ出米矛彪にでゥ い調突るが るながと 日的で く後継 あと今中に ع ľ つも後復働今と第と 5 を に見たあ中交き後は二いでで よりソ をかはなうら 見て う得関促け日い ウ こ えも る両によ係進て本でンと米た復服け 版 返 し 本 と し 、 の し 来 と あ ド 化 華 の 交 し 国伝 う 0 先のえ 如た るのろと米防だ 日関ら最何要も関うし中衛 。て双条 の係れ近に因の係 ソはてこ よはとに中は方約 まい中っ中思つ国米がに 茁するソてソ ういは中認は

す繰旧のて命 返型敵も記 えのはそ念 し帝ソ う 前 て国連だ夜 い主でし祭 る義あ よる中 りと国け 後も明側 る のも言で マ っし \$ ズ ع 国 関危ソ慶フ 係岭浦筋政 にでは以治 はあ社来局 特る会 員 にと帝中の 注の国国演 目主主の説 を張義第を 要をで一見

とてがれ諸手ら 、中る すて着る国を 。に伸ァ るれ K 国 もをとり対ペジ は の切進連してア当 と断めのて行に面 思し らプ くお P ح ゎ れレ 穑 こけり てジ板 とるい れ脆 る弱いネ的だ国う 点るったろ交大 をのド働う未き 突をク し回な ž 破見ト 復国 か 7 ı) け ま国際 し τ • たに関 τ ン `対係 外中則行 堀国ち く東しを をは中 P ョてに 烟 何 国 1. 個 ら Ø めと包 لج 回別み . • よか囲思ッ的な りし網わパにが

っ述をしの でに て `中 ľ 围 5 内 度 政 ٤ 日 外 中 交 関が 係持 改 2 善て を 5 促 る 進 問 さ 題 世 を た

がも数死いで一りでの悩あにるシ衛

要願

E K 周流は日があ前因慮右 恩の文文で 来中革革きたの考たよ グか否のよわよえ上う ら定挫う けり 0.0 **にみ** で の折 潮 日 中 態流 中心 ح 抬拾が国 れ国 は交 頭収か の: が能な 内: 概 目力り政・ ね復 立の強上、次を っ あく の の急 7 るな変 五ぐ き行 っ化 項要 日 以 て政ての い官い中 には る僚 る で 分 中 ۲ け国 文しと 今 るの 革ての日 と方

> っ折 . 0 で人 たがて 折にの こもはり とな何 3 もかも旧シ ľ 5 て っ 中いポ 遺がか 0 。文 さ 復 中 脊革な活心 毎 年 の か し 的 に埋た

はものいで

、普みる不記 1 兵先文中で 5 未通、。満事のや般革国あだ 七はを点る生立 と実月か冒 \$ 未通 が推際だな 来の政青なを腐下っののるけたと し 農き は問治年育載敗放人政論 選測 にけりて っ他 さ波で多ひて方とな若題や層年せし青民治調制は選 つ約いそ種農共が者がイにがたた年日的の度 てモよか々山にらの中デお相が魂が報挫中的 て 、も国オけ当 か如ー い来人うに問村働 るたのだ香題でけ用のに口る多とら何が感探変文し文 港がもとがなるギ恋いれ抜に特がす革革た革 の者私な多都云すり起!愛こをけし輯強 軽問と裏出てし ががどい会 っむ とき ○育てと て視題を返し修た そ政先に し の庁般逃とちも戯ていの・露えて正青 一に呑亡れのそ山ある態 わし行主年 に香亡 れのそ山ある態 わし行主年できた国幹ル ら青れ村れの度体して っ義問まなして部と 保港し 護にて不年は方程でな 例てみたや題るい さ行も満を無面紅あど働いれかプ Ø っりな受理によるのにるはをル中 r h 強ジで 脊入な下兵。世対わ 上てた 3 るい時そ年れこ放を文界すけ現調 だたにのは難とし駆革的るで状すァ紅

育 改 盚 P 9 춓 <

ら中

るてもり るでい い当で度な 合 な 級 Ø 教す学大毛 0 育べ生小沢学 改きのに東校 革語外よ思に も学国 っ想入 何の語てに学 等実の定忠さ 見習水め実せ るを準らでる べ敢はれあに き行低る りは 0 学 もすい のるし従赤業 が勇 っく成 な気教で染練 いを師大まに の喪の学 ľ で失方あてる あしでたいの

で際は心り中麗そ のうか 、心択れ口間情 は国シえな治連すしとを程革の況とれ コばく秩にるがすし旗命内の一だ 、な序加外もるなを外政中般け 体 盟 血 バ っ の 入 交 従 脱 け 振 交 上 で 人 大 る制をのンた中して来文れるかの林民騒 と側阻犠クとで国転の革は者ら変 彫はぎ ラい反連換革派ながの化事深を あしをデう体体す命はらな離は件刻し った払シ論制制る外外ない脱かがなた 。な起疑文 っュ理或のに交交 く の はての的い中至で関なで革りっ念革 っは係 っ 命大たをは ン国立か景革入たなをた周 ときの持果 0 く重 恩 呼かで っし 視そ来号 った て τ 否成れるチのれ国すことした い何 ャだに家るでしたの 3 で ンかは外こ周て とで ح to ピら 交と恩はこあ のと っ 中をに来別ろる一う オ た 。年いの ン国国中なをので

さ中そう れ国のデ例は政国と に加は 兑 で止性 ての るべ中独側背はに まグのをらが命っ。 ラ拒選見あのたと シ権しば ュでた ははあのバ 抑り 米 圧 1

> くとを敗シる循はを動評国 は ィ活 **フる** 中ての数北ン有環中取が価の 1) 勈 ィレ よいしガ様に国上盛しっ 全ピ K IJ H うてたポだ陥のげんよ人 くン 備 ピア っ支なにく民 毛でえ ンル て持くな記日沢入て でバ おをな つ事報東手戒はニナ り得ってにし 革し 先ア 厳 围 よたいしは命た令 般も主 るて当 5 北 K フ を フ同義 京とそにい時 則ィ布 ィ様を はしれ不た、つり 5 1) に示 寧てで拘がったピた ピ中す ろ活っ 1 \$ ン が ン 国 P と動 ィ中近りの共 共 離 カをり国来ピで産ー 産 反 と ĸ ピではン あ党九党のし 手層ンはそ共っ綱六の形て を激の殆の産た領九新勢反 焼化毛んゲ党 と年人で いす沢どりを い私民もし てる東とラ高 うが軍る

い悪派れ活く中のフの

とは がし ・ル 。彼で らは、 は 北先 京般 のの 援 総 助選 が挙 極で め社 て会 少 主 な義 い戦 と線

. • 回も ₹ は 北 堪 围 京 転の会考え外 なか外てにいが交がっ の持 らの姿側中 も変勢に国 化を立は 今の読 っ今 後中取てや もでるい益 围 とる 命 家そとと の 外とが見 チ 交にで 5 + を内 ŧ ħ ン る 推在 ľ F. ら 現 進す 才 る 実 ン てジ周ので 行レ恩中は

ン来に

な

中米のに の国中と 換外談えな 交の た上背 外の景 交大と はきそ なの 米 睹 虚 中でと 会あ実 談 ~ にた 今 °春 늎 で Ø 行 米 か 中 ざ 슾 る 談

部

٤

軍

間

K.

車

-

代はで衛

クっピな がを 緊周あ得 スた! のが ド張恩 っな `で 振来た 俵 か h が 子わニ っ 二林た でがク で あ田ソ ク影 っ中ン っ ソ事 た総を ン件 理送 を は ら 北 そそ と を れ迎を空京のれ Þ えけ港空ーに 悄たれか 港つは 勢時ばらにの内 のにな迎迎現部 変はら資えわに 化かな館たれか にない ま時でな ľ り事で K 1) 情 ろ る フ は の ラがル非ら 抵 の ッあス常 て 抗

ののす考る 、彪 **産 革 物 の て** ら も後では林れそ事 の件 つ々が 。 背 は 多 ک ک **ا** Ø 1 で し謎 潮メはて Ø 流ァ は部 ッ林六分 が 渦プ彪九が 巻さの年多 いれ政のく てた治九て いが報全員 `告 大 相 た 中九 • 会は で全党 の判 の大規 ح b 妥会約とか 協そ等がね

ぁ

0

国けポ毛面っ過林陳 ス沢的て程の伯文産もぺんが林る ト東に来で利 く一重 種要をは文た軍害 がはそはあ元応る 兵ス求かに人圧一の っ投民倒致一文た幾クそ景今 官体にるた入解的し人革 僚制は ょ のし放なて で ラ の軍りでて軍優いあジ よ人にあ文は位たる カ なる革毛を う ľ がル が ` & に圧りがの沢占り な倒 遂東めだ と次 っ的党そ行のる の々 てに安のに要にし辺に 僚き多員た尽請至かま粛 で清 とたく会め力に っし なそ軍し よて は し つ事党毛 っのはた T て他種 て情再 の 行 で が建周 K K っ 全変の 中おな た

> と情揚 うえの生 んかか 勢 すの災です ° L をるだ害ある な見な とに るい てど し備 ~至 け れは軍 え九り ば 主臨全 0 た戦大そ : 毛羽 体会の :沢振 と東り 林制のさ のもは 脱をス中 考周非 のと え恩常 人っし が来な 民 7 ソ あも 戦 P ソン Ø っ今の 争連 と国 で ٤ たの の し境 の軍あ勝 は 件 っ利徹 で Ø は優た万底戦が な勢 歳的争起 かをとをにん

ろ何の髙闘備たを

っしなせ非来 ろたいらん 。外なこに 交いと危中な ルとに険ソ情 しも で l の況 な き全の ۲ τ. る る 面 中 K 0 ば戦で 乗急 せ遽とか争中 ⊐ :h b **に** ソ τ スはで な国 応イ是なる境 ギ 非 く 危 と の 機ンと と紛 軍 を ٤ P は 争 回北回を 中 が 避京避一 国起 し 空し層 K っ た 港な 0 とた でけさ っ で会れば て周 も談はらは恩

あ向のア っマジ丁た たジア 度 0 アル そ と撤対 の と退す 頃 スをる が読政 7 軍み策メ のとをり 選 っ変 カ 択て更は しっ は 周アたク 恩メがソ ・ン 来 I) カ中 ٢ • は接国 ۲, 遊 近 は ク っのア ŀ た方 IJ ¥ I) の向 ン でにカで

化駄苛星六る を目烈に九 図だなよ年 るともり八 た自の空 月 め覚だ中の っ撮中 軍. た影ソ 事空 らさ国 予軍しれ境 算をいたの 0 の中 よ衝 増心そう 突 わだは 大と をす で が 要る軍 ァ 求軍けかょ すの ゲ な 1) る再 IJ b カ 一編 ラ 大 0 方と戦規通 近で模信

件と全結和中 とは央踞中とん体す策ソ なな をるに紛 っ と軍と反争 で飛結独はたと事し対回 もが化 てし避 もた・ っ よ米 T. やう中 Ĵ がで接 大よ林軍軍れ後とてま近 う 彪人 はる に ^の 来る ょ つ類ペ軍る いをきは問 K 提時中恩 爆起期ソ来 発して紛方 した備争式 てよえはの 林 Ĵ て当緊 能だ 中 面 張 事 。国凍緩

る彪機中蟠 結全にす国 ん然直るで いばし立 たなて王人のあし 空かい国民と っる的解思て 軍 。な放わ最 がた Š くに事が土。は問る 、件も着 か ら今直る性 ん回後がが でのし、強 い事ば海く た件ら軍で よんくと 地 Ć はは空 `空軍方 で あ林軍はに

で爆 っで彪 り件 ` は 内云 部っ のて シみ りわ アば ス党 な官 危僚 ·機と を軍 現官 わ僚 しと たの も衝 の突

アでりの談がりをで はま内は期ヵ得もかあ発林 パなく容、待ぺな固 く ニか国はシし 」 かめてた あ事 っ際乏ョでスっな問 ァ さた情しりいにたけ恩 · 勢いとた終のれ来 ۶ もし程始でばと P ハは ノ必のて有しまな 失 望ィずでは利 る らて ° ずは はしあ萎な台 τ 米も っ麗も湾し 中周たなのはか米乗 反会恩し見で現し中り 、せは状米会出 の談来 趨にのそ場を維中談し 勢反期のでか持会でた 化発待後あっと談は路 ったなは緊線 あをにの 。 り 結 張 を る感添中た 。 じ う 国 が 米 、局せ是 中中でざが たもを しのとそ会国メる非

> あのすと る懸るで °案必中 とで要国 れあにと をっ迫し 特たらて に日れは 急中 が復残度 せ交さ転 たにれ換 要取たし 因組最た はむ大外 無との交 と課路 中に題線 なでを ソ っあ更 係たりに

当は一借々とるだ込島とでイラ海てもら百 での多推 時五月用1のパしめがのはンッ洋きあ印二四あで年進そ の八にし・情ラた態ソ情なドカ戦たりパ十中 る 0 戦万ッ 金年日たル報ソの勢連勢くシ海略 ナ峡 門の本いくもルではのの 上ソソ争の関 あ完影中ソ半公に連連が大係 台のとス流 馬湾総云がれアる成響で連島海もはのあ兵の 0 す下、のは性南印印 祖海評っ台たイ っカ悪 ・た湾しラ時るにも軍必の方度度 てが化 ンにと入し事ず主まへ世パ対 対の中との ٤ っ台援し張での大ン峙現 す危立か基 ソ ドソ る機労 隆連に連 にた 湾 助 も を 進 外 陸 グ し 在 攻の連新のの大はなな海が中し出交にラて中 繋内 訪 華 港 ジ き 海 る ら 峡 ま 国 て し 上 対 デ い ソ のは・すのいてのすシる国 は森中社をヤな南 、日ま影るお接るュ。境 台をのがソ l 関島 で • ソ本す響わ 湾曝際曝速 ナ心の り近影 独まに 軍器に器の IJ を南中連海増下け だ響立たは にすはし基 ス寄東国の及大にだそけ力ま昨約 対る トせ海は中びしあしのでがで年八 た地 すと中。とのて域焦国日てる、 たな強の後十 る共国としょいに慮封本いもまめくま変半万 こっ化かと もに側のてクるあしじ列るのたマ

ソそ 連っ

外で

務残

省る や大

プ き

ラな

ゥ問

ダ額

のは

主対

張日

化外

も交

明の

かと

なと

ょで

5 あ

にる

ると除っの 中第。 国七軍ッ 沿艦に連 岸隊中に をに国対 封対はす 鎖抗、る しす当中 よる時国 うとソの とと連級 しをはり 透日・た提中の も唱り爆 のし連発 でた合で あが艦あ

てシ 活をるジ見 o ア て 地も 域、 ヘ中 の国 ソは 連如 の何 浸に を本 気 海 VC • し東

ありのるとでににめ わ従も中れ ろに保米私あむなつこれ来出にた他いナことれをたで うす護華はるいりけらるテはは後方る海れ云は作とは °るの軍思 ° ではるしよレじ台如台かからつりつ云を の許事ってもしとた うじめ酒何麿がらのた連てっく がに条てメ米なま状にのてはにの親東と。が米た よお約いり難いか況を画いなし国わ南と つ面るぜて内れアを いきはるカ軍かりの た とまな 0 ٤ ح は事 K ソ と と は事とまなどに り活を い台の中と条のちかいは蔣連き見 う 湾 国こ約分がでう現経とるる ま のがまにまに懼え北よわ国結かと がソにとではるば京りれ夫んに 連し っ情一声台側をな人でつ台 て勢言る湾に努かははい湾 T 而結 無をもだはも囲 っりいては のぶ台害読触ゖソ 、気たシけ論国 中と湾にんれば連台のがアな 議連 、人でか ・と湾変 国とをなでな をか りいか米結を化 7 でか重 5 近 っ中ぶ余 本なメ つた あとね追 P は 音い · 1) つもた会とりあ るのた放 現 でよかあのの談と締る し論がさ

> 。、て交すっ対であ 。 月 え 連 そは渉るてすあっ中のがは れそがこいるるた固グな領 ものととる日日 な前のにと本本日にムの問 るに秋中との列本おイに題 た田か国で関島にいコ け中らはも心改田ての日 国総始心あが造中は訪中い 慶理め穏り高論内と日接て 節をらか まの関れ以近は 日る延がが来ム原 の北れで 前京るな本と長出き対1則 ににといがと線現わ日ド的 し呼あ。経等上し め微をに たぴっ更済々に て笑気日 かたてに的、シ田気外に本 っいは日に北ペ中に交した たと ツ京り総なを ソ て譲 の考中平連はア理る繰 歩 でえ国和とよ開のこ拡 とす またと条提く発提とげのる

るしし約携知に唱でた一考ソ

くせ来る今た六社紙 を知長る外。年か年説誌昨 唱さ々か交その、のを共年 えしとなのと国林長出同の て#日 勝で慶彪期し社国 もま中今利中節事にた説慶 つ復年を国は件目かが節 内た交の高と どのっつ出に 建経を国 らし う真たたせは 設済謳慶かてな相文 な っ節にはるは革とか林 一建たに謳目のど騒いっ彪 のはい中からぎうた事 に中で三た復となはのが件 進国あ紙か交待の果は、の つ誌っを `今た っかし せこた共た実てとて中年め 同の現い見何国は前 ` \$ 社でしる詰を人何例 説あてかめる民とに がる らてたはしな °周でおら五てく 大 き果恩まりし も三

は再 向 展は ずれ 残で さ 幾 れら た茧

目とのし ょ T と業 五う本 か と国年に格 を をと何的 τ 自近続回な 覚代い と経 す化たな ľ る す ح く 建 5 K る と党 だ。 至との内に っと な闘努 てはい争 力 困経を す す難済行 る ٤ で政な ح P あ策い ۲ なるで で ٥ はた 絍 あ 済 問 め る 建恩後に 設来進一従 をも性目来

あたれ堪対で遂は自外 にたま済トに最るめばえすはげ 閉身圧ニ指の機 近のにな て る 杏 る さもが クし そ交取近中だどら行開は 自れ世 ソ うずく国や己た界ひンけ たの中運中にた P まめ外国動国出ひ τ 云い もたに圧ををのてた っる `維進 本対も 中行と τ 格ソ `中持 めで か中い 的関中国すて ざ国 る な係国のる来 1 る大 ľ を陸 経かは国 とたデ 5 らも際 済 ۲ のオ得にに っ化は な押 建し で đ てと 設 で 办 ギ い寄 • も 内 自 を きる I 世 部由な 進 が的と て め対を化い なれお るソ 固の 。そー 호 b 必国め外中れ体で 要防な圧国だ化中中の がのけににけを国国め

も眼しは経ン的 いだ外を接 ての う が入 を国 いされ図は 中りかた を ح b 日 輸 と国 とんいつ本 入 ではと K の つの あ自 **化な** で \$. 企 し て つ身 はろある業 てで 0 ح なり 2 K 進 っと て中対 ħ 国し を例歩 て し 分えし いて日は従 解は強 ない中 日来 いる間本と しプ く 0 ラ な K のは 組ンる と米は技変 ⋬. ح と中そ術っ K E でのら 7 ヤて 方しを留関いプ積 て主意係う ラ 極

办

な 日て会 日い本行得 は本と側とし 思 とう そ てしれ はてか 輸いら 出るは *က*် ပ 自 增所 身 大 謂 で を自同 大力 様 き更の く生プ 期主ラ 待義ン してト てあを はる製 なの作 でし

とれ義事起大で ろで を理じ 、考的れ の態る 切 5 えんて な 人 ح 国なとあ母 ても < < ٤ 再るにる兄 も文るれ 中 °弟 侵だな 化とは ァ 国 略ろる 日と日的他平 λ とうと 中し 本に人常 7 ۲ しし 日間て P よ無には لح での中文り事 米 τ お同 反と関将交国明も なけ文 撃と係来際と史始時る同 さにと経のは的末に異 種 れよは済ル異にがは母 な よ兄 るる比的し 8 P 悪 ٤. とと較なル兄 ろ弟と S 0 ٤ 日にっ を しと 弟い # に本な IJ 見のろ歴い見 く な経 5 ク出国い史がる考 でろ的 る済ぬ シ す べえ や帝困 ح و あた に 一 き る も国難ンとる背も 朝でペ

知主なががの景地とあき

う 云 う ح のな 四国わ度とよい中にこで異 十観れ をだり 棄けに 於七をわ てを考 日年確れ て受え 十立 自 売た す身 月る 日りだ 0 十時間本し け 四期題 人たで 講日にとと b 来し し てそわ τ て 5 日のれ るも本宜わ ٤ っ の伝れ 思と国をは う主家競 体目合北 性標う 京 ののよの

外 交 会 演 要 旨 文 贵 在 記